



「二重行政のムダ」なくせる？
いいえ、「都構想」ではなくなりません



「都構想」で、「二重行政をなくす」と宣伝

バブルのとき「りんくうゲートタワービル」と「旧WTCビル」がつくられ大きな批判が巻き起こりました。これは「二重行政」のせいではなく「府」も、「大阪市」も「ゼネコン浪費」にのめりこんだ政策の失敗です。

「府」と「特別区」でも

「都構想」でムダなビルは作れなくなる？この質問に、大阪府は府議会で「WTCビルなどは府でも特別区でも建設できる」と答え、大阪市も「特別区で実施できないとされているものではありません」と語ります。

「制度いじり」でなく、「政策の転換」を

ムダづかいをやめさせる——この願いの実現は「制度」ではなく、「政治の中身」を変えることこそ必要です。「旧WTCビル」のような巨大ビルは、世論の力でその後はつくらせていません。

医療、福祉——二重三重にこそ

この間大阪市は「二重行政」は「悪」とレッテルをはって、大事な「住吉市民病院」をつぶしました。とんでもない話で、命と健康、くらしを守るためには国も、大阪府も、大阪市も、二重三重の対策が重要です。それはコロナ禍で明らかになりました。



つぶされた住吉市民病院

「都構想」のコストこそムダづかい

今は大阪市を廃止しなくてはならないような二重行政はありません。それなのに1300億円(15年分の試算)もかけて「特別区」をつくる——「都構想」の方がムダづかいです。

大阪市今昔物語

1

日本初の公営地下鉄
御堂筋線



写真は開業当時の心齋橋駅(写真提供:大阪市)

2018年4月からメトロにかわった地下鉄ですが、御堂筋線は、地下鉄としては大阪で初めて。しかも、公営の地下鉄としては、日本で初めてです。1930年に梅田・心齋橋間を着工し、1933年に開通しました。開通時は、試乗する市民の行列ができたといえます。また、当時は1両編成でしたが、将来を見越し10両編成に対応したホームの長さを備えました。また、心齋橋駅にはエスカレーターとシャンデリアが配され、その豪華さと先進性の人々は目を見はりました。

ところが、大阪メトロが2018年12月に発表した心齋橋などの改装デザインに「奇抜で派手だ」との批判が殺到。2019年8月に修正案を発表するなど迷走しました。